

一般質問発言通告書

発言順位 6番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和7年 11月 26日
三島市議会議長 堀江 和雄 様

三島市議会議員 14番 古長谷 稔

質問事項1	ウェルビーイング指標導入の意義と今後のビジョン
具体的な内容	三島市では現在、第5次総合計画後期計画の策定が進んでおり、その中で「ウェルビーイング指標の活用」が明記されている。これは、市がウェルビーイング指標を政策の根幹に位置づけ、国に先行して市民の幸福度を可視化する仕組みを導入する方針を打ち出したものと理解する。ウェルビーイングとは「身体的・精神的・社会的に良好で満たされた状態」と定義され、市としても令和5年12月に「めざせ！ウェルビーイング宣言」を掲げ、多様な取り組みを展開してきた経緯がある。従来の行政評価が事業実績や数値などの客観的指標を中心としてきた一方で、今後は幸福感や生活の質、満足度といった主観的指標を取り入れた新たな評価軸への転換点と捉えることもできる。市民の声とデータを統合し、政策成果を見える化することによって、市政への信頼と共創の基盤づくりをどう進めていく考えか、以下、伺う。
1	ウェルビーイング指標導入への取り組みの経緯と目的
2	指標の構成とデータ収集の方法、調査に基づいた具体的な結果とその分析
3	総合計画における重点プロジェクトなど政策や行政評価への反映
4	市民アンケートの精度向上と継続実施の体制について
5	市民共創に向けた普及啓発、地域協働ウェルビーイング活動の実効性向上について
6	今後どのように分析を強化し、政策形成に反映していくのか
質問事項2	長伏公園を核とした子育て・スポーツ・自然体験等の連携について
具体的な内容	長伏公園の第1期となる大型遊具の整備が完了すれば、園内外の人の流れが大きく変化することが見込まれる。これを踏まえ、第2期では、空調が整った全天候型施設の導入を視野に入れた検討をぜひ進めていただきたい。多様な目的で訪れる人々にとって、天候に左右されず快適に過ごせる空間の存在は、三世代が安心して憩える環境づくりにも直結する。また、この周辺では長伏グラウンドの改修や松毛川の環境整備が同時並行で進められており、将来、(仮称)狩野川新橋が完成すれば、対岸の狩野川サイクリングロードなどとの連携も視野に入ってくる。子育て世代の憩いの場としてはもちろん、スポーツの練習や大会開催の場、自然観察や体験活動の場として、多目的に人が集い交流できる立地条件が整つたとも言える。
	このエリアは三島市だけにとどまらず、隣接する清水町や対岸の沼津市を含めた県東部全域から人が訪れる可能性を秘めており、広域的な子育て・スポーツ・自然体験が連動する新たな拠点へ発展させる好機と考える。以下、三島市としての、この一帯の連携方針と具体的な整備の考え方について伺う。
1	空調の整った全天候型施設の必要性と検討状況
2	パークPFIなど民間活力を活用した持続的運営モデルの導入可能性
3	水害想定、軟弱地盤条件等への技術的対応について
4	長伏公園を核とした子育て・スポーツ・自然体験等の連携の可能性について